

百花の声

松岡隆子

はくれんに呼ばれしごとく歩みよる
はくれんの百花の声を仰ぎけり
雛の日の風やはらかき墓域なる
立子忌の土筆とあらば摘までおく
佳き人に遇ひたることも立子の忌
春の日の心ゆくまで虚子の墓
ともかくも空が青くて花辛夷

笹鳴の姿見しこと誰に告げむ
花ミモザ黙してをれば眠くなる
風花や夢に続きのありとせば
誕辰の海見ゆるまで春の坂
花いまだ少し話して別れけり

懸念はあった。が、どうしても3月例会を休会にする決心がつかなかった。結局また休会することになり幹事の方々の手を煩わすことになった。3月21日まで延長となった緊急事態宣言が予定通り解除されるかどうか危ぶまれるが1か月後には事態が好転することを期して、4月例会は開催することにした。新年度が始まる。新たな気持ちで再出発したい。4月で「葉」は創刊4周年、祝賀の集いは望めないにしてもせめて葉三賞の授賞式は行いたいと思う。

辛夷や木蓮が咲き出した。青空に広がる花の白さは眩しい。